

# 平成28年度 会派調査研究報告書

(視察先1箇所につき1枚)

会 派 名	創始会	
事 業 名	先進地視察	「特別支援学校における民間企業とのコラボレーションについて」
事 業 区 分	①研究研修	②調 査

## 1 上田市での課題と研修・調査の目的

専門知識や経験の差などから上田市の小中学校の特別支援学級担当教員において抱える課題も様々あり、東京都立港特別支援学校のように専門知識を持った民間の力や能力を導入することで、個々の生徒に即した幅広い教育につながることや担当教員の能力向上に加え、担当教員の負担軽減につながる提言へのヒントにもなると考え視察した。

## 2 実施概要

実施日時	視察先	東京都立港特別支援学校
平成29年2月14日 10:00~11:45	担当部局	港特別支援学校

報 告 内 容	<p>1 視察先の概要</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 特別支援学校として、家庭・地域との連携を図りながら個別の教育支援計画を策定し、地域に密着した特別支援教育の推進を図っている。</li> <li>○ 高校生としての自覚と自己理解を深めるとともに、集団生活を通して協調性や人への思いやりの気持ちを育て、卒業後の社会生活を主体的に切り開いていく力の形成を図っている。</li> <li>○ 生徒一人一人の個性を伸ばすとともに、年齢に応じた考え方や態度等の社会性を育てている。</li> <li>○ 個別指導計画を作成し、学習内容に応じた指導グループを編成して指導に当たっている。</li> <li>○ 職業教育の充実、進路指導の充実を図るため、学校全体でキャリア教育を推進している。</li> <li>○ 人権尊重の精神や社会に貢献する精神を育むため、社会体験や奉仕活動、交流活動及び共同学習を推進している。</li> </ul>	

2 視察先の特徴

(1) 教育目標

- 自ら学び考える生徒の教育
- 思いやりの心がある生徒の育成
- たくましく生きる生徒の育成
- 地域社会に貢献できる生徒の育成

(2) 校訓

「元気」「根気」「勇気」

- 元気とは、明るく心身ともに健康であること
- 根気とは、がまん強く、継続できること
- 勇気とは、前向きに、チャレンジすること

(3) 民間事業者（たすく）の特徴

誰もが差別されることなく、公平に自らの意思で決定したリスクを冒す尊厳が与えられる機会を実現することを使命とし、学校や支援機関へのコンサルテーション、講演、研修等を行っている。

3 視察事項について

東京都立港特別支援学校では、普通科で「基本的生活習慣の確立」「個人の課題を明確化」「卒業後に向けての意識づくり」を主な狙いとして、国語や数学などの授業を行い、職能開発科の授業においては「基本的生活の確立と安定」「社会体験を通じた課題の明確化」「自立と社会参加に向けた知識作り」を狙いとして、事務作業や物流のピッキング作業、リサイクル作業など、単純作業で企業にとって戦力となる能力の醸成を図っている。また、教員の授業能力向上及び人材育成では、外部専門支援員と連携して授業改善を行うほか、生徒からアンケートを取り、生徒一人一人の自立活動の指導内容について明確にし、「個別指導計画」や「個別の教育支援計画」に反映させるなど、授業内容の向上を図ることが特徴ともなっている。

今回の視察では、実際に学校のコンサルティングを行う民間事業者である「たすく株式会社」からも直接お話を伺い、コンサルを行うことでの効果や課題についても伺うことができた。民間業者は、学校側の求める技術のマッチング（企業と学校など）や学校に対する外部評価などを主な役割とし、学校側は企業などから技術を教わり、それをどのように生徒に教えていくかを検討し実施する。その中で特に強調した部分は、各学校にコーディネーター役を入れ、学校とのマッチングをしてくれる人材の確保が重要とのこと。外からの風をなかなか受入れにくいのが学校の風潮でもあるので、その面を考慮しながら、言うべき部分は言い、上手くコーディネートしていく能力が必要となる。学校側がたすく株式会社を選んだ理由としては、校長先生が直接話す中で、自分のやりたいことと民間事業の方向性が近いことなどを基準とした。その中で月に1回学校長と事業者で面談し、検討と課題について報告しながら、学校長から方向性を伺い軌道修正を図っていく。

#### 4 考察

視察の目的でも記載したように、特別支援学級における課題は様々である。たすく株式会社でも、全国でこのような取り組みが広がっていくようにと考え、学識経験者や元教師などをコンサルタントに育成する仕組みを作り、それを全国に普及していくことも視野に入れている。

今回の視察のテーマである特別支援学校と民間事業者との連携に加え、学校での取り組みも実際に校内を見させていただきながら大変参考となった。上田市における今後の取り組みも見ながら、今回の視察を参考に提言をしていきたい。



考察(まとめ)・市政に活かせると思われる事項等

\* 視察先の写真等がある場合は添付のこと

# 平成28年度 会派調査研究報告書

(視察先1箇所につき1枚)

会 派 名	創始会
事 業 名	先進地視察 「森林整備事業について」
事 業 区 分	①研究研修 <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">②調 査</span>

## 1 上田市での課題と研修・調査の目的

全国的に広がりを見せている松くい虫被害について、被害後の新たな視点からの森林整備事業を視察し、上田市における森林整備の可能性を研究することを目的とする。

## 2 実施概要

実施日時	視察先	NPO法人 土佐の森・救援隊
平成29年2月15日 9:20~11:10	担当部局	NPO法人 土佐の森・救援隊

報 告 内 容	<p>1 視察先の概要</p> <p>副業的な林業従事者を増やすことで、林業再生を目指す。簡単に林地残材を有効利用。素人が林業に参入する事例が続発。林業再生のモデルとして、ノウハウを各地に広げている。</p> <p>2 視察事項について</p> <p>(1) 副業林家を増やしたい</p> <p>林業従事者は主に、森林組合などのプロ集団だけで構成されている地域が多い。最近では一般住民に近い森林ボランティアが加わるようになってきた。プロ集団と森林ボランティアの中間的な立場で、昔は小規模な副業型の地伐林家がたくさんいたが、今では少なくなってしまった。</p> <p>農業では自給農家や定年帰農等の小規模な農家が直販所の拡大で元気になってきている。そういう中から専業農家に育つ人もいる。現在、林業にはそういう仕組みや流れがない。森林ボランティアからいきなりプロになるのは難しい。森林組合等に緑の雇用で入った人たちも、定着するのはごくわずか。プロを増やすにも、副業型の小規模林家を復活させる必要がある。</p> <p>(2) プロ集団の大規模集約林業が山に負荷をかける</p> <p>集約林業で間伐すると、よい太い材から伐って5~6割抜く。作業道は投資的行為。施業期間だけ維持できればよい。収入間伐で採算を合わせようとするれば、こういうやり方になってしまう。過度に抜けば風が吹けば風倒木も出る。雑に作った作業道は大雨が降れば山を崩す。自伐林家の間伐は状況を見ながら、少しずつ間伐する。作業道も長年使うため崩れないように丁寧に抜く。委託施業では一気に間伐し、20年ほど何もせず、また一気</p>
------------------	--

に間伐、という施業にならざるを得ない。一気に間伐すると山に負荷がかかる。間伐すればよいというものではない。

(3) 高性能林業機械も必要なし

高性能林業機械を導入すると、1人1日で数立方以上の材を出さなければ採算が合わなくなる。また専門化も強いられる。そのノルマがあるので現場作業はきつくなる。

自伐林家に必要なのは、林内作業車とチェンソー、ユンボと2トントラックぐらい。自分所有の山だから頻りに山に入る。毎年継続して収入を得るために長伐期になる。低投資で人海戦術なので経費がかからないから、材価が安くてもなんとかなる。低投資なら現場作業もマイペース。参入もしやすくなる。土佐の森方式の収集運搬も、設備は簡易。架線をはって、ウインチとワイヤで作業道まで引きずりだし、運搬車で運ぶ。作業道もこまめに抜く必要はない。設置に20～30分。費用が20万円、林内作業車が150万円なので、全部で200万たらずの投資でできる。大きな材でもこれで運べる。ワンセットのキットになっており、森林NPOからの引き合いもある。

(4) 木質バイオマスと地域通貨を上乗せ

材を出すということから可能性が広がる。木質バイオマスとして材を出し、収益で基金をためて、「モリ券」という地域通貨を発行した。この取り組みも、小規模林業支援策として、うまく役立っている。

(5) 町も地域通貨を上乗せ

もう少し残材の価格を上げたい。間伐をして森林整備をすれば二酸化炭素の吸収が増大し、化石エネルギーの代替もできる。二酸化炭素排出削減、地球環境保全活動だから、町も協力してくれないかと、仁淀川町に提案したところ、町も「エコツリー」という地域通貨をトン千円上乗せするようになった。『エコツリー』は地元の商店街で使える。残材搬出システムに商店も入り、地域ぐるみの仕組みに仕上がった。

(6) 副業だから間口が広がる [1]

林業専業で生活しようとすれば100ヘクタールの山が必要。そんな人は山林所有者のほんの数パーセント。副業なら面積は少なくても良い。木材価格は杉が1万円、ヒノキが立方2万円ヘクタール当たり、およそ30立方の材があるので無理のない間伐で3割間伐すればヘクタール当たり100立方。そのうち70立方が用材になれば、杉で70万、ヒノキで140万の収入になる。1ヘクタールにかかる時間は約1週間。その間伐材を2～3か月かけて搬出すれば、この収入。悪い商売ではない。間伐の搬出補助金も作業道補助金も出る。残材もエネルギー利用で金になる。農家が農閑期に、会社員が休日に作業できる副業。季節労働で100万稼げれば上等。土佐の森・救援隊で林業を始めた農家もいるが、農業よりも儲かると言っている。

(7) 副業だから間口が広がる [2]

仁淀川町で全戸アンケートを採ってみた。3千戸のうち850人から回答があり、そのうち740人が山林所有者。副業になる程度の山は持っている。材の搬出をした経験のある人も107人。搬出経験のない人でも、作業道や技術指導があれば材を出したいという人が300人。併せると400人が副業的林家になり得る。休日に作業できる副業。季節労働

働で100万円稼げれば上等。土佐の森・救援隊で林業を始めた農家もいるが、農業より儲かると言っている。

(8) 小規模林家の集団から出るC材安定的

バイオマスプラントは、小規模林家からの収集運搬を入れ込んで、うまく回転し始めた。趣味ベースの個人も搬入者に位置付けた。大規模事業者は、プラント近くの施業現場が終わり、次の現場は60キロも離れたところになった。そこからトン3千円にもならない残材を運ぶと大赤字。そんなことから、出すときは大量だが、出さないときは全く出さない。小規模林家なら、入れ替わり立ち替わりで安定供給ができる。小規模林家からの搬入量は、全量の1割と見込んでいたが、今や8割が小規模林家から搬入される。

(9) 特殊事例はモデルではない

特殊事例はモデルにならない。まず真似することが難しい。真似できたとしても、隣接地域で同じ取り組みをすれば競合して片方がつぶれてしまう一人勝ちの仕組みでは、山村再生モデルとは言えない。モデルなら隣接地域でも、真似しやすく、共存できなければならない。この土佐の森の取り組みは、誰でも可能で、他の地域にも広げることができる「山村再生モデル」である。

(10) 現場リーダーが育てば「のれん分け」

現場リーダーが育つと、独立させて別グループを作ってきた。こうち森林救援隊も土佐の森から独立した。真似ができる取り組みだから、「のれん分け」して、高知県内の各地域にグループを作りたい。

考察(まとめ)・市政に活かせると思われる事項等

3 考察

上田市においても松くい虫対策は喫緊の課題となっている。今後守るべき松林をしっかりと選定し、明確な目標設定を考えて実施していく必要があると考える。

しかしながら、松くい虫被害にあった山林は、そのまま放置されているか、伐倒駆除を行っても山林の再生にはいたっていないのが現状である。

土佐の森・救援隊が行っている『山村再生モデル』は今では全国各地から問い合わせがあり、実践している地域もあるという。上田市においても今いちど山林再生を真摯に受け止め同様の事例を参考にすべきと考える。

\* 視察先の写真等がある場合は添付のこと

# 平成28年度 会派調査研究報告書

(視察先1箇所につき1枚)

会 派 名	創始会
事 業 名	先進地視察 「地域交通政策（デマンド交通システム）について」
事 業 区 分	①研究研修 <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">②調 査</span>

## 1 上田市での課題と研修・調査の目的

上田市としては、公共交通の永続的な運行維持のため「乗って残そう、公共交通」として、運賃低減バスの運行をはじめとして、上田市街地循環バス「青バス・赤バス」、丸子地域（まりんこ号）、オレンジバス、武石デマンド交通（武石スマイル号）等の運行し、買い物弱者・高齢者への利便性を図ってきたが、利用者に対するきめ細かな運行ルートやコース設定を望む声も多く、先進地である宇和島市の地域交通施策を研修した。

## 2 実施概要

実施日時	視察先	愛媛県宇和島市
平成29年2月16日 9:30~11:30	担当部局	総務部企画情報課

報  
告  
内  
容

### 1 視察先の概要

人口79,639名、面積469.58平方キロメートル（森林70.9%、田畑17.3%、宅地2.9%）、2005年8月に宇和島市・吉田町・三間町・津島町が合併し、新「宇和島市」発足。県の西南部に位置し、典型的なりアス式海岸がつづく宇和海と急峻な鬼ヶ城連邦に囲まれている。

また、伊達10万石の城下町として栄えた南予地方の中核都市。標高80mの城山を囲む形で市街地を形勢。四国西南地域における陸・海交通の要衝。おもな特産物：果樹栽培（温州みかん・晩柑類・ブラッドオレンジ等）、養殖魚（鯛・ブリ・ハマチ）、じゃこ天・真珠の養殖が盛んである。

真珠養殖、はまち養殖、みかん成産の振興を図り、歴史と文化の町としての観光都市を目指す。2012年3月には、松山自動車道・2016年3月には宇和島道路全線開通となり、拠点までの所要時間の短縮により農産物の出荷支援、災害時の緊急輸送路の確保が大いに期待されている。「宇和島ルネッサンス」では、各プロジェクトを



軸にして広く市民から意見・提案を公募。重点事業である駅周辺の再生に取り組んでいる。

## 2 視察事項について

### (1) コミュニティバス、デマンドタクシーの取り組みについて

- ・コミュニティバス（定期路線運行）

吉田町・三間町・津島町の3地区で実施。

料金は片道大人200円、小人100円（障害者及び介護人は半額）。回数券有り。

- ・吉田町及び三間町はそれぞれ市内タクシー会社に業務委託。津島町は直営。

- ・誰でも利用可能。コミュニティバスと一括。

- ・運行経路（エリア）・時刻はあらかじめ決まっており、利用予約があった場合のみ運行する。

自宅からでなく、専用の停留所と停留所（公共施設等）を結ぶ運行サービス。

- ・利用できるのは運行対象エリアの住民に限られ、利用にはあらかじめ利用登録が必要。

### (2) デマンドタクシー（デマンド便）

- ・旧宇和島市、別当地区、吉田町、三間町の3地区で実施。

- ・料金は片道大人200円、小人100円（障害者及び介護者は半額）。別当地区のみ、大人300円、小人150円（障害者及び介護者は半額）。回数券有り。

- ・それぞれ市内タクシー会社に業務委託。吉田町及び三間町はコミュニティバスと一括。

### (3) デマンドタクシーの利用について

#### \* 利用登録

- ・市役所又は委託業者に備え付けの申込書に必要事項を記載し提出。

- ・市役所と委託業者間が共用する利用者名簿に反映。

- ・予約は1週間前から各便出発時刻の1時間前まで受付。

- ・第1便は、前日午後5時までに予約が必要。

- ・目的地に到着後、現金・回数券・定期券のいずれかで利用料を支払う。

### (4) 補助事業について（国、庫補助金）

- ・基幹路線の支援を運行する費用についての補助。

- ・別当1路線、吉田3路線、三間2路線が対象。

- ・赤字額のうち1/2を補てん。

## 3 デマンドタクシーの今後の課題

○ 当市は1次産業が盛んで、高齢者になっても出荷等のため自分で運転する人が多く、「運転できる間は運転したい。」という意見が大半であり、あまり公共交通機関を利用しない土地柄である。

○ 利用人数が減ると、コミバス・路線バスとも国からの補助金の対象とならなくなり、路線の減便や廃止が余儀なくされることから、今後、定期的な乗り方教室等を実施することにより、これまであまり利用しなかった住民に、意識の転換や公共交通利用の利便性を図り利用促進につなげたい。

#### 4 考察

- 上田市では、この公共交通対策については、別所線から始まり「青バス・赤バス・マリ  
ンコ号・オレンジバス・武石スマイル号」等、の運行に対し、多額の助成を行い市民利  
用者の利便性を図ってきている。また、高齢者、買い物弱者に対しても考慮して、運行  
コースや本数、時間等、デマンド交通（要求・要請）にも対応してきている。
- 上田市としては、全国の中でも先進的に取り込んでいると思うが、今後の課題としては、  
利用者側の（買い物・通院 等）、希望に添うような、きめ細かな運行コース・駐車場の  
位置等・検討していく必要がある。

考察(まとめ)・市政に活かせると思われる事項等

\* 視察先の写真等がある場合は添付のこと